



# Asaka

2013~2014年度  
国際ロータリーテーマ

## WEEKLY REPORT

No. 39 Date. H26.4.15(火)



国際ロータリー第2530地区

### 郡山安積ロータリークラブ

- 会長／高縁 勝一
- 幹事／川名 修一
- クラブ広報・会報委員長／伊藤 重幸

#### 第39回 (通算1317回) 例会



### 幹事報告

#### 例会変更

- ◎4/15(火)郡山コスモスRC→4/13(日)12:30PM~  
郡山南RC・郡山アーバンRCとの合同例会  
ホテルハマツ
- ◎4/16(水)郡山西RC→6:30PM~  
観桜会 そもさん亭
- ◎4/16(水)郡山アーバンRC→4/13(日)12:30PM~  
郡山南RC・郡山コスモスRCとの合同例会  
ホテルハマツ
- ◎4/17(木)郡山RC→6:00PM~  
観桜会 ビューホテルアネックス

- ◎4/17(木)郡山南RC→4/13(日)12:30PM~  
郡山アーバンRC・郡山コスモスRCとの合同例会  
ホテルハマツ
- ◎4/21(月)郡山北RC→4/19(土)10:00AM~  
郡山北RC創立40周年記念式典 ホテルハマツ
- ◎4/22(火)郡山東RC→4/20(日)6:30PM~  
奈良東RCとの合同例会 ビューホテル

#### ■ 出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回修正率	前々回修正率
28名	28名	0名	100.00%	85.71%	89.29%

## NPO法人2050の会からの報告

## 久しぶりのネパール訪問 北谷 勝秀

3月8日から18日にかけて、久しぶりにネパールを訪問した。主目的は我々が敬愛するOKバジ(垣見一雅氏)のネパール在住20周年記念に参加するためである。我々は一行14名で賑やかな、楽しい旅行となった。東京出発時は11名で、現地で原道宏夫妻と馬淵豊氏が参加したものである。

OKバジの祝典は日本から100名ほどの参加者及び無数の現地の著名人や農民たちが集まって、非常に印象深い式典と表彰が行われた。その場に居合わせると、いかにOKバジが皆に慕われ、頼りにされ、また、素晴らしい活動をしているということがびんびんと伝わってくるものであった。

我々はこの式典に先立って、先ず国連開発計画の代表をしている野田章子氏を表敬訪問した(野田さんは2050の会員)。その後すぐに彼女の案内で、国連開発計画の支援でネパール政府が実施している貧困女性の地位向上プロジェクトとマイクロクレジットを訪ねた。この二つのプロジェクトは立派な活動をしており、それぞれ実績を上げているという印象を受けた。ただ、もう少し自助努力を養成するような「OKバジ方式」が導入されればすごいものになるであろうという感じも否めなかった。

祝典に先立って、我々は2050の支援活動を垣間見ることにしてあったので、先ず、インドと国境を接するダン地方のトゥリシプールという町にシスターホームというNGOを訪ねた。これはこの地方出身で階級の低い部族女性たちのために日夜努力をしているサイニ・チャウダリー女史の活躍舞台である。サイニさんは約15年前に、2050の貧困女性のための奨学金を管理するためにシスターホームを立ち上げたのであった。その後ずっと女性の地位向上のために活動している有徳の女性指導者である。最近ではOKバジとも密接な関係を保ち、彼の支援方法取り入れて活動を広げている。彼女はシスターホームに貧困家庭の子女を収容し、高校・大学に通学させ、コンピュータ技術なども教えている。現在までにすでに20名以上の大学卒業生を社会に送り出して、社会のあらゆる分野で活躍さ

せている。これらの女性たちも2050の奨学金制度やサイニさんの支援がなければ社会貢献どころか、読み書きもできず、夢も希望もない生活を強いられていたであろう。

更に彼女は近くの村で貧困のために学校にいけないう子どもたちのために小学校を経営し、また、別の場所では女性たちが少しでも「人並みの」生活ができるよう様々な支援をも展開している。彼女のご主人は貧困農民のために有機農業の普及に尽力している。我々はこの夫婦の活動に感動し、これから支援の努力を傾注することを申し合わせた。

我々は上記シスターホームの奨学生の他に、OKバジを通じて支援している奨学生3名と面接することができた。いずれも、高校・大学で勉強する機会を与えられたことを深く感謝し、卒業の暁には、気の毒な女性たちのために、社会のために尽くしたいと抱負を語ってくれた。

今回垣間見たネパール、十数年前に比べると格段の相違が見受けられた。先ず政治体制に変化を見せている。女性の寿命が少し延長している。町もきれいになっていくし、衛生状態にも改善の跡が見られる。何にましてもOKバジやサイニ夫妻に象徴される開発活動の在り方に大きな変化が訪れている。ただ問題は、国中どこでも目に付くように、女性が依然として重労働を強いられているという事実である。少数民族が山岳地帯に孤立して住むことの多い国であるので、交通や通信が不便、教育も行き届かない、病気や妊娠などでも医療の恩恵にあずかることが非常に難しいというような問題を抱えている。この国の人々が人間の基本的な人権をエンジョイし、人並みの生活ができるようになるまでにはまだ相当の時間と投資が必要である。

ネパールを訪問してみると、何のかんのいっても、日本はありがたい国だ、日本人は幸せだと思わざると得ない。ネパールの人々が少しでも健康に、幸福に生活できるよう、我々は支援の手をさし伸ばささなければと思うし、OKバジやサイニさんを通じて、少しでも多くの子どもたちが勉強をする、少しでも健康に生きていく機会を得るようにお手伝いしたいと思う。それが、幸せの日本人が出来る簡単な人類愛の表現であろうし、我々のできる最低の支援ではなからうか?